

八王子市生涯学習審議会会議録

会 議 名	平成30年 第4回 八王子市生涯学習審議会
日 時	平成30年11月29日(金) 午後7時00分～午後9時00分
場 所	八王子市保健所 別館 1階会議室
出席者氏名	委 員 三浦真一 岡本夢乃 炭谷晃男 小林 正博 浅井揚三 石川智子 碓井恵夫 小倉 艶子 加藤方浩 丹間 康仁 永村隆 守屋和広 村上 ひろみ
	事務局 瀬尾生涯学習スポーツ部長 石黒図書館部長 岡本生涯学習政策課長 浅岡学習支援課長 太田中央図書館長 新納生涯学習センター図書館長 成田川口図書館長 渡邊生涯学習課課長補佐兼主査 高木生涯学習政策課主査 塩澤生涯学習政策課主査 鎌田生涯学習政策課主任 植村生涯学習政策課主事
欠 席 委 員	
議 事 案 件	<p>《議題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・八王子市生涯学習プラン改定にかかる生涯学習の振興方策について（諮問）</li> <li>・第4次読書のまち八王子推進計画の策定について（諮問）</li> </ul>
	<p>《報告事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①都市社連協関連 報告事項について</li> <li>②教育委員会定例会における関連事項について</li> </ul>
	<p>1. 開 会</p> <p>2. 定足数の確認 出席者 13名、会議の成立を確認</p> <p>3. 会議録署名委員 碓井委員を指名</p> <p>4. 議 事</p> <p>議事案件1 八王子市生涯学習プラン改定にかかる生涯学習の振興方策について（諮問）</p> <p>（事務局）</p> <p>議案資料1-1 審議シート</p> <p>議案資料1-2 都立学校開放事業について</p> <p>議案資料1-3 Society 5.0 とは</p> <p>議案資料1-4 地域運営学校 活動事例集</p> <p>に基づき説明</p> <p>◆「学校と家庭、地域等との連携の推進」に関するご意見</p> <p>（委員）</p> <p>八王子市の場合、来年春には学校運営協議会と新たな地域学校協働活動という新しい文科省の考え方、学校運営協議会がバージョンアップしたスタイルが全校に設置さ</p>

れるので、放課後子ども教室の前段に、地域と学校と家庭が連携する組織体制がつくられているということを含め盛り込んでいただきたい。また、地域学校協働本部という形で新たな学校を核としながら連携していく体制に八王子市も移行しつつあるということを入れていただきたい。

(委員)

諮問では連携の推進となっているが、子ども達の「育ち」と「教育」に繋がっていくという意味で「協働」という言葉を入れてその中身を考えていくことも大事だと思う。学校と地域が双方一緒にやることで、地域も活性化し、地域の人達も新しい学びができる。これからの時代、少子化・核家族化が進む中で子どもの教育は一部の家庭の問題となりがちになってしまうが、そうではなく、市民全体で八王子の子供を育てていく総がかりな教育を視野に入れた生涯学習を盛り込んでほしい

(委員)

本市の課題のところに、地域ごとに特徴があり、地域の特色を生かした取り組みとあるが、これには大賛成であるが、一方で、課題というより一部は市として既に取り組んできたものもあるのではないかと思う。具体的な例としては、みなみ野の図書館が、西部地区の取り組みとして少し弱いのではないかという中で実現できた。さらに本年度は、恩方にも図書館を設けていただけた。八王子は東と西では違う面があるという所が気にかかっているが、そういった面では、地域性を考えているということを取組・現状の中でも書いていただけたら良いのではないかと思う。課題だけではなく、現状にも盛り込んでいただけないか。

(委員)

地域の教育力というと、絶対に「青少対」というものが関わってくると思うが、どのような団体なのか教えてほしい。

(委員)

青少対は市の社会教育が始まりである。地域の人々がやっている組織で事務局が学校にある。活動の一番の柱は子供たちの健全育成・地域づくり・人づくりである。

(委員)

「地域」をどのぐらいの範囲と捉えれば、子供達にとっても地域社会にとっても学校にとっても良いのか。言い方としては抽象的であるがどのように考えればよいのか、委員の中でご意見があればお伺いしたい。

(委員)

中学校を事務局とした地域母体がよいのではないか。顔の見える・繋がる関係が出来る地域が良い。南大沢の場合は、ニュータウン地域となるので、街づくりがスクールコミュニティからスタートしているので、学校はなくてはならない組織の一員だと思う。

(委員)

文科省のコミュニティスクールの Q&A の中で、子供たちが通学できる範囲とあるが、これに矛盾点を感じる。例えば、学区は安全に通えるところであるが、学校選択制の問題で学校を何校も越えて行く所もある。中学校に関しては全市内の学校から選択ができる。そうすると、大災害を考えたときに、親元へ帰るのが通常であるが、遠く離れた学校からどのようにして親元へ帰るのかという課題がある。その問題を解決するためには、地域というのはどういうことなのかということをもう少し詰めてい

く必要がある。学校選択制というのも善し悪しではないか。市としても考えていく必要があるのではないかとと思う。

(委員)

選択制の話が出たが、日本は通学区域をベースとして地域の中で核として存在してきたという歴史もあるので、これからも学校を核とした地域づくりは進んでいくと思う。そういう意味で、選択をする方もいるが、親や子供自身が地元のこの地区で面倒を見て欲しいと思えるような地域づくりをしていけば選択制はいらないということにもなる。地域の子は地域で育てるといふ地域づくりをやっていくことが必要なのではないかと思う。

(委員)

その通りだと思う。ただし、どうして選択制が重く見られているのか。子供自身や親自身にもあると思うが、入りたい部活が地域にないため、別の学校に行くといったことがある。選択されなかった学校はそういった部活自体が出来なくなってしまう。これは市の教育政策にも関わっていくと思う。その辺を含めて選択制の問題を考えていかなくてはならないと思う。行政で簡単に区割りをするのではなく、現状分析から始めて選択制の問題を考えなくてはいけないと考える。

(委員)

選択制は市の方でも検討をしていると聞いている。学校運営協議会でも市の方が調査をしている。確かに選択制が良いのかという問題はあがあるが、基本的には学区域内だと思う。ただし、いろいろな事情があり、そこにしか行けないという縛りみたいなものが出来てしまうも良くない。選択制というやり方ではなくそういった余地を別のやり方でできないか、市の方で検討されていると思う。

(委員)

八王子市では放課後子ども教室がほぼ100%近くで実施されているが、そこに対する地域の住民の方達の参加の仕方は重要だと思う。審議会としてはどうあるべきか提案をしておかなければいけないと思う。

(委員)

実施校を増やすことを生涯学習では課題にしてきたが、中身としては立ち切れにせざるを得ない運営をしている学校もあるのではないかと推測している。数を増やすという枠づくりも必要だと思うが、中身についての現状分析及び課題の解決の仕方について、市はどのようにしているか確認したい。

(事務局)

今までは1つの学校に1つの放課後子ども教室ということを進めてきたが、中身の充実・運営団体の人的フォローをすることに移ってきている。実際に、今まではPTAが単独で推進委員会を立ち上げているケースがあったが、昨年度からPTAだけでは回らない学校も出てきているため、学運協に運営の協力を依頼したり、広く支援できるような団体に来てもらい、一緒に運営してもらおうなどの取り組みをしている。プログラムに関して、昨年からは放課後子ども教室の事例集を作成し、他の団体がどのような事を行っているかを紹介して実践をしてもらったり、他の放課後子ども教室の方から話を聞いて、その方に依頼するなどをして、内容を充実させている。また、今週、生涯学習政策課で放課後子ども教室の関係者を集めて、特別支援の内容について研修を行ったところ。こういった研修を通し、関係者がお互いに話し合うことで運営をしゃ

すくなるのではないかと考えており、引き続きこういったフォローをしていきたいと思う。

(委員)

八王子市は広域にわたって地域性が生まれる。まさにその通りであるが、南大沢は放課後子ども教室も児童数が少ないため、案としては専門的な職員もいる学童保育所と上手く連携ができないかと思う。学童は場所がないと困っている場合もあるので、地域に見合った子ども教室を考えてもらいたい。

(委員)

小さい学校は子どもが減ってしまうと親も少なくなることから、PTA 自体に負担がかかり、放課後子ども教室の運営等も大変になってしまう。組織がきちんとしている学童指定管理者が運営していれば一番持続できると思う。

(委員)

放課後子ども教室の市の予算が現在 1 億 4000 万ぐらいだと思うが、どのように予算を消化しているのか確認したい。

(委員)

元々国の制度として構築されているもので、実際に現場を見守る役目の方や、現場で学習を指導する方など、色々な大人が有償ボランティアという形で関わっている。その方々の謝金等が主な予算の中身となっている。学校によって、実施日数も見守りの人数も違うので、金額も学校によって異なっている。

(委員)

過去に審議会で放課後子ども教室の話題になった時に、予算が学童指定管理者の対応にも使われているという話があったと思うが、指定管理者にどのくらい費用がかかっているのか確認したい。

(事務局)

指定管理者は会社になるので事務手数料などもかかる。1 ヶ月当たりの費用は地域など運営と比べると上乗せして毎月 10 万ぐらいはかかるので、指定管理者にお願いすると 1 校当たり 120 万ぐらい余計にかかる。

(委員)

シルバー人材センターや PTA の方が行っている所もある中で、指定管理者に頼んでいる学校は多いのか。

(事務局)

12 校で学童保育所の指定管理者が運営している。

#### ◆家庭と教育力の向上に関するご意見

(委員) 地域の教育力で家庭の中にいる子供たちを大事に育てていくという、地域と親が一体化してみんなで育てていこうという意識作りが大事だと言われている。親としての責任を持って子育てをするという意識はもちろん持っていただく必要はあるが、一方で地域社会の中で作っていくという意識も必要となってきている。そういった視点に対して意見があればお伺いしたい。

(委員) 相談する相手がいないという課題があったが、同じように子育てをしている親同士が繋がって、悩みを共有することが始まりだと思う。そういう意味で、本市の

現状でもある読み聞かせを赤ちゃんと保護者が触れ合うだけではなく、そこにやってきた親同士が繋がりを持てるような孤立をしない事業もやっていただきたい。

(会長) 同じような世代で横のつながりも重要。一方で、年齢差があっても地域の中でお互いに相談することが出来るようなという考え方は重要なのか。

(委員) 縦の繋がりの中でも、昔のおせっかいのおじちゃんおばちゃんが今、一番必要だと思う。学校運営委員会も学力向上のためということで、沢山やっているが、行っている方に聞くと、漢字ドリルの丸付けなど先生のお手伝いのようなことをしている。一番必要なのは、生の子供の声を聞くこと・生の子供の顔を見ていろんなことを感じられる人たちが必要なのではないか。今現在、町会も入りたくないという人が多い。そういう関わりが気薄になってしまっているのが原因なのではないか。

(委員) 相談相手がない、仕方が分からないというレベルではなく、相談しなくてはいけないと感じない人の子供を救う方が難しい。虐待・寝ているから学校休みますなど自主性のような感覚の家庭が増えている。

(事務局) いろいろな家庭があるので、子供達の言う事を聞いてバックグラウンドに気付かされることがあるので、お母さん達にアプローチはなかなか難しい。

(会長) 家庭環境が多様化している中で、どういった施策をとってもらおうかということ提言しなくてはいけない。様々なケースでの意見がありましたら。そのあたりはいかがか。

視点として、福祉としてのアプローチと学びという点でのアプローチがあると思うが、我々は学び・生涯学習という点で何が出来るかということを考えないといけない

#### ◆個人の学びの成果を学校・地域で活用すること

(事務局) 本市の現状として、関連事業評価の中では、生涯学習フェスティバルを紹介。子供向けの取り組みを増やしたり、障害者の作品展示など展示内容を取り入れたりと、様々な方に交流の場を提供することを努めている。

(委員) 学んだ人とその力を必要とする人を結びつけ、活動の場や機会をより多くつくること。

(委員) 学ぶに対して・活かす・繋がるが弱いのではないか。

(委員) 人材の育成と活躍の場の提供では、育成講座は多数あるが、実際に活躍の場が少ない。

学びの成果を活かす機会の充実に関しては、文化・芸術の発表とスポーツしかない。

(事務局) 学んだ成果を地域と社会に活かすということは大事なことだと思うが、気になることが本市の課題の3つ目に書かれている人材という言葉だと思う。我々は、人を材料とする人材という言葉を使ってしまいが、生涯学習というのは決して街づくりに市民を動員していくという学習ではなく、自分の学びが地域を変えていける、地域の主人公として生きていけるんだという変化の学びだと考えるので、人材という言葉を使うかどうかは、それぞれの自治体の考えや生涯学習の捉え方が出てくる部分なので丁寧に見たい。

(委員) フェスティバルなどのお祭りを通して、年に1回か2回の短期の中でアピールをしていくという活動もあるが、八王子市には博物館がないという話があったと

思う。地域運営学校活動事例集の中で宮上中学校の学運協の活動が載っていて、学校博物館『宮上ミュージアム』が立ち上げられている。実際に見に行ったが、今は生徒の作品などを飾ってお茶を飲めるような物も用意してある。常時ボランティアの方をお願いして見守りをしてもらっているという気の利いたやり方をしている。今は子供達の作品も壁に貼るような紙の物ばかりではあるが、いずれ立体的な作品や地域のおじいさん達の骨董品などもあれば出していただいて少しずつ地域に広げていきたい。地域で将棋や囲碁で遊びたいという方は来て、自由に場所を使って遊んでいただける。学運協での取り組みを地域に広げていく。学校というと地域から応援を頼む・支援を頼むというような課題が見受けられるが、そうではなく、学校が核であるならばこのような学校から地域に出ていく活動もすごく大事であると思う。どこでもできるわけではないが、余裕教室を使って行っている。持続性については、少子化で子供が減る傾向があるので、教室の活用のゆとりがある。このような形が実を結んで、地域に広がっていき活性化に役に立てば良いと思う。

地域の生涯学習フェスティバルのようなものが必要か。生涯学習フェスティバルという名目でなくても、細分化された中での地域のフェスティバルのようなものを作ってもらえる必要があるか。生涯学習フェスティバルということであれば、生涯学習センターでやるだけでよろしいのか。

（委員）市民センターまつりはそのようなものではないか。

（事務局）それをもっと拡充したもの。地域で学んだ事を講師としてやるという捉え方が多いので、別の側面からの地域社会への参加の仕方や自分自身を含めた地域の住民との繋がりや作り方を提案していただきたい。小中学校も含まれた捉え方。中学生になると自立をしているので、一歩違った参加の仕方があるのではないかと。それに対して、地域住民や先生方がどういった対応をしたらよいのか。

（委員）体系的な知識を持っていても役に立たない時代になってきている。浅川が汚れているので綺麗にしたいなど身近な地域に関心をもってその課題は何かをみついている。ボランティア袋でゴミ拾いをしてどういうゴミが多かったかなどを見て経験をした人が大きい社会になったときに対策が出来る。生涯学習で地域の人がやってほしいと言うが、その人たちが小さい時に経験をしていないため実践できない。自分がやったことが生きる経験をし、八王子市として温かい循環のようなものが出来たら良いと思う。

（委員）部活動のあり方改革があるが、それでも教員が部活動に追われてということがあるので、地域のスポーツクラブの応援を得て、学校と連携して部活動が成り立つと良いかなと思う。恩方地区では夕やけスポーツクラブが力を入れてやっていただいでいて非常に助かるので、これがもっと広まると良いのではないかと。

（委員）学校での子供達の学びが、先生から正解を学ぶだけではなく、正解がないような問いに自分たちで課題を見つけて解決しようとする学びを子供たちがやっている中で、大人も生涯学習を考える時も地域課題の解決を視野に入れて自分が住んでいる地域で見つけた具体的な課題を、学びを通して解決していくということを視野に入れて、子供も大人もそういった課題を一緒に解決していくことを組み込めたら良いと思う。

（委員）子供・大人にこだわらず褒められれば誰でも嬉しい。そのような体験を沢山していただくような場が必要なのではないか。地域の中・講座で勉強してきたことで

発表の出来る場があるのは、文化芸術とスポーツだけでそれ以外の部位は発表をする場がないということもあるが、それ以外をやっている人も沢山いる。そういうものを活用出来る場づくりというのは地域社会ではどうなのか。どういう形で地域社会で活かしていける手法がとれたら良いのか。発表する場があったら良いのか。

(委員) 地域ではいろいろな技能を持っている人がいるのかもしれない。子供から見たら怪しいけどおもしろいおじちゃんなど、子供達に何かを教えてあげられるけど知られていないなどと思う。コーディネートをしてくれる人が地域にいたら要望があったらそのような人に依頼をして子供達も地域を含めておもしろいことも出来て人も繋がって、施設で教えるなどをしなくても、地域の中で繋がりを作ることが出来るので繋げる人がいたら良いと思う。

#### 議事案件 2

##### 第4次読書のまち八王子推進計画の策定について（諮問）

##### 議案資料 2 第4次読書のまち八王子推進計画の策定について

(事務局) 2.(1) 子どもの読書活動について。読書感想文、感想画コンクールなど開催しているが、それ以外に子どもに対してどのような事業しているか、また、施設で子ども向けのエリアを設けているか。岐阜市の中央図書館では、「子どもの声は未来の声」というメッセージを利用者に発信するなどしている。図書館において、子どもをどう位置付けていくかということを議論できればと思う。

赤ちゃんの時から読書環境に触れて読書を好きになってもらい、図書館を利用していただくような事業を展開している。次回資料提供したいと思う。例えば3才4か月の時にブックスタートして絵本を提供している。読み聞かせをしつつ絵本を提供して本に親しむ事業やお話会などを実施している。

(委員) 学校図書館の規模について教えてほしい。1校あたり蔵書はどの程度か。標準的には1人あたり何冊程度の蔵書が適切なのか。また、本を入れ替えていかないと読まなくなってしまう。他市と比べて1校あたりの学校図書にかかる費用はどの程度違うかについても教えてほしい。八王子は地域が広いので図書館があっても子ども達はあまり行けないと思う。小さい子どもは親と一緒に行く機会はあると思うが、小中学生はあまり見かけないので、学校での図書が重要だと思う。その他、学校司書はいるのかについても教えてほしい。司書がいる、いないによって読書の取組が変わってくるので、資料を提供いただきたい。

(委員) 今までの話の中で家庭での読書という視点が欠けていると思う。読書行政の一環として家庭の中で読書を取り上げていくのかを提案していく必要があると思う。また、家庭での読書の取組ついて事例等あれば次回お示しいただければと思う。

(事務局) 学校図書館と公共図書館の役割分担について、国の推進計画の中でも学校支援が大きく謳われている。子どもにとって身近な図書は学校図書館になると考えている。他方、学校の先生が非常に忙しい中で、学校によっては学校図書に関われない、また、学校図書館司書も週1回程度しか行けない状況もある。常に人いるということは重要であるし、学校もそこは検討している。我々としては平成31年4月に学校図書館システムが導入する。人が少なくとも利便性を高めるという意味では連携体制を

強化していきたい。人材確保は難しいがソフト面で支援できる部分は計画に盛り込んでいきたいと思う。

(委員) 学校図書館はどのくらい利用されているか把握しているか。

(事務局) システム入れるにあたって、学校図書館を担当している指導課という所管と確認しているが、把握しきれていない状況である。

(委員) どのくらい図書室を開館できているかがわかるとよいと思う。私の地元の中学校では以前は開館が非常に少なかった。当時のPTA会長と副会長が率先して当番をして開けるようになってから取組が進んできたという経緯がある。

(事務局) 学力状況調査の中で、家庭収入が学力に影響しているという調査結果があった。一方、収入が高なくても学力が高いというエビデンスもあり、それは、親が新聞や本を読む習慣があるという家庭だった。図書館をはじめとする社会教育施設は貧富の差に関係なく利用できるもので、読書による学力が向上するといった効用なども示しながら、読書活動の推進につなげられればと思う。

(委員) 昔は校舎の中心に図書室を配置した上でパソコンなども整備し、本やネットの情報を比較しながら調べられるといった、情報センターのような機能を持つ構想があったが、いつの間にか消えてしまった。調べる楽しみを覚えると本を読む興味も高まると思う。情報センターとしての学校図書館や公共図書館のあり方なども考えてもよいと思う

(事務局) Society5.0の話があったが、情報が膨大な中で、昔はインターネットで情報を検索するだけであったが、今は自分に必要な情報をどう選ぶかということが必要になってくる。これからの子どもたちは我々以上に情報活用術が求められてくると思う。学校図書館や公共図書館においても情報リテラシー能力をより高める取組が必要だと思う。一方、インターネットに全ての情報があるわけではないので、そこはすみ分けて整理していきたい。

#### 報告事項1

都市社連協関連 報告事項について

報告資料1-1 平成30年度都市社連協 第3ブロック研修会 報告

報告資料1-2 平成30年度都市社連協 第3回役員会・拡大役員会  
に基づき説明

(事務局) 前回の時は東京都教育庁が主体となって進めていた経緯がある。今回は都の言い分としては、東京都は請け負わず、都市社連協が主体としてやってほしいというスタンスになっている。一方、他県は県の教育委員会が主体となっている。この件については、順次報告したいと思う。

#### 報告事項2

「新たな集いの拠点施設整備基本計画(仮称)(素案)」における「憩いライブラリの検討結果」について

報告資料2 「新たな集いの拠点施設整備基本計画（仮称）（素案）」における「憩いライブラリの検討結果」についてに基づき説明

（委員）資料の4ページに憩いのライブラリと13ページ。今回この施設は図書館法に基づく図書館として整備されるのか。図書館の機能を併設する公の施設として整備していくのか。

（事務局）前提としては公共図書館である。一方、駅から離れているので、一定の魅力的な施設にするために、公共図書館の機能に加えてサービスを付け加えているとイメージいただきたい。

（委員）図書館が1館増えるという理解でよいか。

（事務局）そのとおりである。

（委員）郷土資料館はあるが、芸術的なミュージアムは想定に入っているか。

（事務局）現時点では想定していない。

（委員）夢美術館は狭いという話を聞いている。理想からすればこれだけ広いスペースがあるので、ミュージアムも入れれば大きいものができるのではないかと思う。

（事務局）可変性、継続性という意味ではコンテンツは1回作って終わりではないと考えている。どういう体験ができるか、どういうものが見ることができるかということを考えることによって、継続的な利用が得られると思っている。現時点では最低限の事しか決まっていないので、今後、人が呼べる仕組みは考えていきたいと思う。

（委員）多摩美術大学へ行くと校内に行くと色々な彫刻といった芸術的な作品が展示されている。八王子には美術大学などもあるので、そういった中で活かせるものがあればよいと思う。

### 報告事項3

「東京八王子ビートレインズが選んだイチオシ本」冊子の配布について

報告資料3 「東京八王子ビートレインズが選んだイチオシ本」冊子の配布についてに基づき説明

（委員）これらの本は図書館に所蔵されているか。

（事務局）10冊中2冊の洋書が所蔵されていない。現在発注しているところである。

（委員）実際借りた時に選手のコメントやサインなどが書かれているとおもしろいと思う。

### 報告事項4

教育委員会定例会における関連事項について

報告資料4 教育委員会 定例会 関連資料に基づき説明

閉 会

上会議録は事実に相違するところがないことを認め、下に署名する。

八王子市生涯学習審議会会長

八王子市生涯学習審議会委員